

参同契

竺土大仙の心、東西密に相附す。

人根に利鈍あり、道に南北の祖なし。

靈源明に皓潔たり、支派暗に流注す。

事を執するも元これ迷い、理に契うも亦悟りにあらず。

竺土大仙心 東西密相付

人根有利鈍 道無南北祖

靈源明皎潔 枝派暗流注

執事元是迷 契理亦非悟

門門一切の境、回互と不回互と、

回してさらに相渉る。しからざれば位によって住す。

色もと質像を殊にし、声もと楽苦を異にす。

暗は上中の言に合い、明は清濁の句を分つ。

四大の性おのずから復す、子の其の母を得るがごとし。

門門一切境 廻互不廻互

廻而更相渉 不爾依位住

色本殊質象 声元異楽苦

暗合上中言 明明清濁句

四大性自復 如子得其母

火は熱し、風は動揺、水は湿い地は堅固。

眼は色、耳は音声、鼻は香、舌は鹹酢。

しかも一一の法において、根によって葉分布す。

本末すべからく宗に帰すべし、尊卑其の語を用ゆ。

火熱風動揺 水湿地堅固
眼色耳音声 鼻香舌鹹醋
然依一一法 依根葉分布
本末須歸宗 尊卑用其語

明中に當つて暗あり、暗相をもつて遇うことなかれ。
暗中に當つて明あり、明相をもつて覩ることなかれ。
明暗おのおの相對して、比するに前後の歩のごとし。

当明中有暗 勿以暗相遇
当暗中有明 勿以明相覩
明暗各相對 比如前後歩

万物おのずから功あり、当に用と処とを言うべし。
事存すれば函蓋合し、理応ずれば箭鋒拄う。
言を承てはすべからく宗を会すべし、みずから規矩を立する
ることなかれ。

万物自有功 当言用及処
事存函蓋合 理応箭鋒拵
承言須会宗 勿自立規矩

觸目道を会せずんば、足を運ぶもいづくんぞ路を知らん。
歩をすすむれば近遠にあらず、迷うて山河の固をへだつ。
謹んで参玄の人にもうす、光陰虚しく度ることなかれ。

觸目不会道 運足焉知路
進歩非近遠 迷隔山河固
謹白参玄人 光陰莫虚度